

ご挨拶と自己紹介



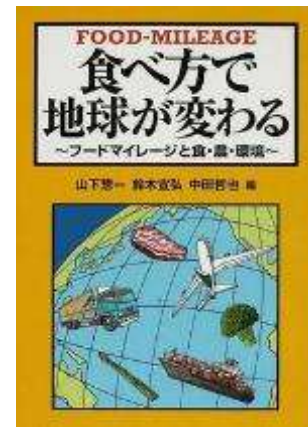
1960年 徳島市生まれ
1982年3月 岡山大学農学部卒業、2012年 千葉大学大学院園芸学研究科修了
博士(農学)
1982年4月 農林水産省入省
2001年4月～3年7月の間、農林水産政策研究所において篠原孝所長
(現・衆院議員)の指導の下、フード・マイレージに関する研究に従事

その後、九州農政局(熊本市)、北陸農政局(金沢市)、統計部数理官等を経て2020年3月 定年退職。2025年3月、再任用終了

個人的なライフワークとしてフード・マイレージの普及等に取り組み
ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」主宰

(ブログ、メルマガなど) <http://food-mileage.jp>

著書 『フード・マイレージーあなたの食が地球を変える』
(2018(新版)、日本評論社)
『食べ方で地球が変わる フードマイレージと食・農・環境』
(山下惣一氏、鈴木宣弘氏との共著、2007.7、創森社) 等



東京・東村山市在住。
自宅近くに市民農園の一面(30平米)を借りて農作業の真似事。

「食と農の未来フォーラム」について



写真:野生キンラン（東京・東村山市）、堰浚いボランティア（福島・喜多方市）、PresentTree植樹イベント（山梨・笛吹市）

1 開催の趣旨と目的開催の趣旨

(1) 現在、食と農は様々な深刻な課題に直面。

例：食料自給率の低迷、担い手・農地などの急速な減少、農村の過疎化と「限界集落」化、栄養バランスの崩れと食生活の乱れ、膨大な食品ロス 等

(2) これらの課題の多くは、基本的に「食（食卓、消費者、都市）と農（産地、生産者、農村）の間の距離」が離れてしまっていることに起因。

多くの都市の消費者にとって、食べものは、お金さえ出せばいつでもいくらでも買える単なる「商品」に。

どこで、誰によって、どのように生産されて食卓まで運ばれてきているか想像できず。

食はいのちの源。食べものを大切に思う心、食の生産に携わっている方たちへの敬意、自然への畏敬の念を取り戻す必要。

(3) 本フォーラムは、都市の一般市民（消費者）の方々を主な対象として、食と農の現場の実情と課題を身近に感じ、自主的な行動変容につなげて頂くことを期待して、月1回程度、食や農の「現場」に精通しているゲストをお招きして、中田個人（ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」）の主催により開催。

食や農の現状に興味・関心をお持ちの方など、幅広い皆様の参加をお待ちしています。

2 開催実績と予定

【第1回】2025年6月30日（月）午後7時～9時、オンライン

開催趣旨等について中田から説明と意見交換（概要）<https://food-mileage.jp/2025/07/04/blog-587/>



【第2回】7月23日（水）午後7時～9時、オンライン

大友 治さん「米は田んぼだけで作られるのではない 稲作が生産するのは米だけではない」

（概要）<https://food-mileage.jp/2025/07/27/blog-592/>

【第3回】8月26日（火）午後7時～9時、オンライン

鈴木純子さん「原発被災地でオーガニックコットンを育て「続け」ること」

（概要）<https://food-mileage.jp/2025/08/30/blog-598/>



【第4回】9月20日（土）午後7時～9時、オンライン

榊田みどりさん「都市住民こそ他人事じゃない！ 私たちの食べものは大丈夫？」

（概要）<https://food-mileage.jp/2025/09/25/blog-602/>

【第5回】10月27日（月）午後7時～9時、オンライン **佐久間 建さん、藤崎美智子さん**

「ハンセン病問題を基礎から学び、紙芝居『わたしの命の物語』から生きやすい社会について考える」

（概要）<https://food-mileage.jp/2025/11/02/blog-608/>



【第6回】11月25日（火）午後7時～9時、於 パレスチナ料理店・Bisan（東京・十条）

高橋美香さん 「パレスチナの家族の今」

（概要）<https://food-mileage.jp/2025/11/28/blog-610/>

【第7回】2026年1月31日（月）午後7時～9時、オンライン

富澤太郎さん 「限界を迎える限界集落ー消えつつある自給自足の農と里山暮らし」

（概要）<https://food-mileage.jp/2026/02/06/blog-622/>



【第8回（本日）】2月17日（火）午後7時～9時、オンライン

釘島浩子さん 「「日本人ファースト」って？『武士の娘』から考える」（仮題）

（参考）<https://www.chikumashobo.co.jp/product/9784480027825/>

【第9回以降の予定】月1回程度、食や農の「現場」に精通しているゲストをお招きして基本的にオンライン開催（時にはリアル）

アメリカにおける日系人移民の歴史(1) 【杉本鉞子の略歴】

1866年(慶應2) 江戸幕府が海外渡航を許可

1868 (明元) 日本人労働者が**ハワイに初めて渡航**

1870 (明 3) 約40人がカリフォルニア州に移住

1873 (明 6) 旧越後長岡藩の家老の六女として生まれる

1882 (明15) 清国人移民法 (清国人労働者の入国を10年間禁止)

1883 (明16) 明治政府が徴兵令改正。徴兵逃れの海外留学が増加

1885 (明18) 日本政府とハワイ政府の間で**官約労働移民**に合意 (945名)

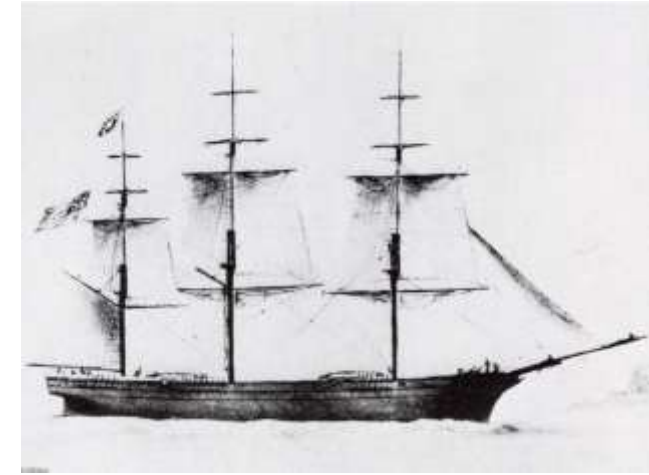
- ・ 明治政府は余剰人口問題や経済不況の解決策として農村の若者に海外移住を奨励
- ・ **福澤諭吉**「米国は志士の棲家なり」

1895 (明28) アメリカ本土の日本人は約6,000人に。

日系人コミュニティの形成 (新聞、宗教団体、学校等)

1897 (明30) ハワイ・ホノルル港で1000名以上の**日本人の上陸拒否**

1898 (明31) 結婚のため渡米



1868(明元) 最初のハワイ移民



1897(明30) 日系移民の上陸拒否

出典：海外移住資料館「海外移住歴史年表」 <https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/>
等から中田作成 (次ページも)

写真資料は  **ジャパンアークイブズ** 1850-2100
日本の近現代を可視化し、時代を伝える

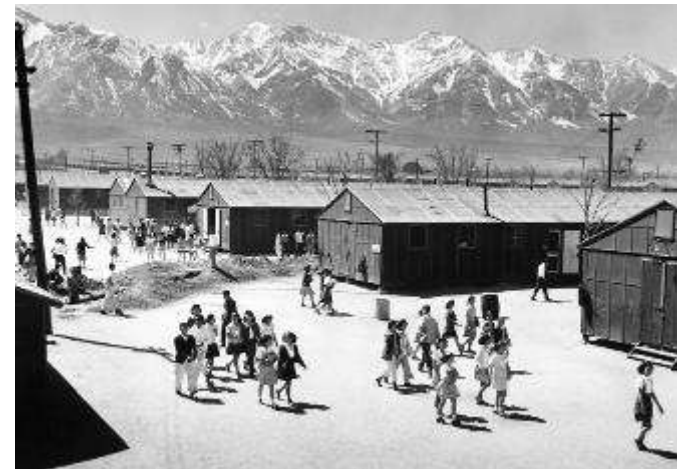
 **NATIONAL GEOGRAPHIC** より

アメリカにおける日系人移民の歴史 (2) 【杉本鉞子の略歴】

- 1900 (明33) サンフランシスコ市で排日決議
東洋人排斥同盟 (1905)、日本人学童隔離騒動 (1906)
- 1908 (明41) **日米紳士協定** (アメリカへの日本人移民の制限)
夫が破産し娘2人を連れて日本に帰国 (夫は2年後に急死)
- 1913 (大 2) 外国人土地法
1916 (大5) 再渡米
1923 (大12) **“Samurai” s Daughter** を雑誌に連載
- 1924 (大13) **排日移民法** (ジョンソン=リード法)
- 1925 (大14) **“A Daughter of the Samurai” が7か国語に翻訳、ベストセラーに**
- 1927 (昭 2) 日本に帰国。その後も『成金の娘』『農夫の娘』等を英文で発表
- 1930 (昭 5) J A C L (日系人市民協会) 設立
- 1940 (昭16) 日本人向けに「『武士の娘』が見たアメリカ」を雑誌連載
- 1942 (昭17) 大統領行政命令9012/9066号、約12万人の日系人を**強制収容**
- 1943 (昭18) 日系アメリカ人の**軍への志願登録**を再開 (コミュニティの分断)
- 1945 (昭20) ~ 日系人に対する**差別**は根強く様々な**迫害**が続く
1950 (昭25) 76歳で没
- 1988 (平元) 日系アメリカ人補償法 (**市民自由法**)、レーガン大統領の謝罪



1924 (大13) 移民排斥運動



カリフォルニア州インヨーの強制収容所

(参考) 「食」からみた日米関係 (1)

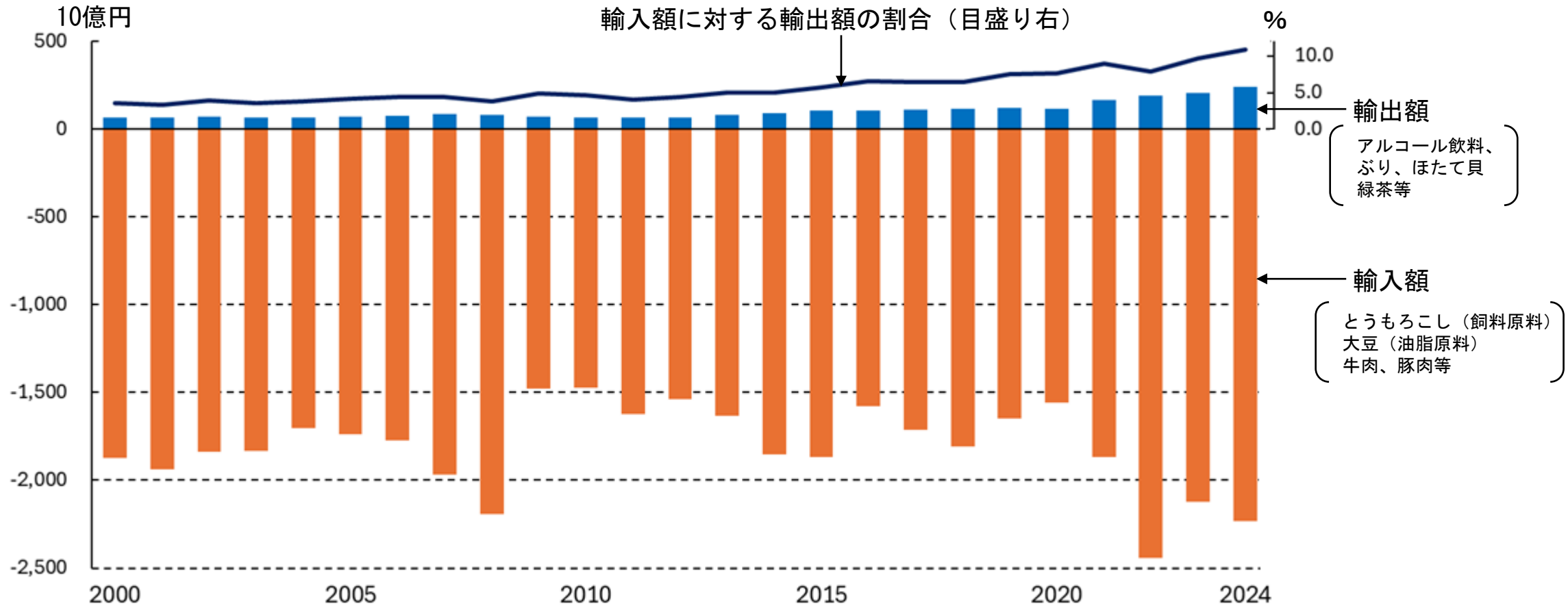


図335 日米間の農林水産物貿易の推移

(拙メルマガNo. 335掲載)

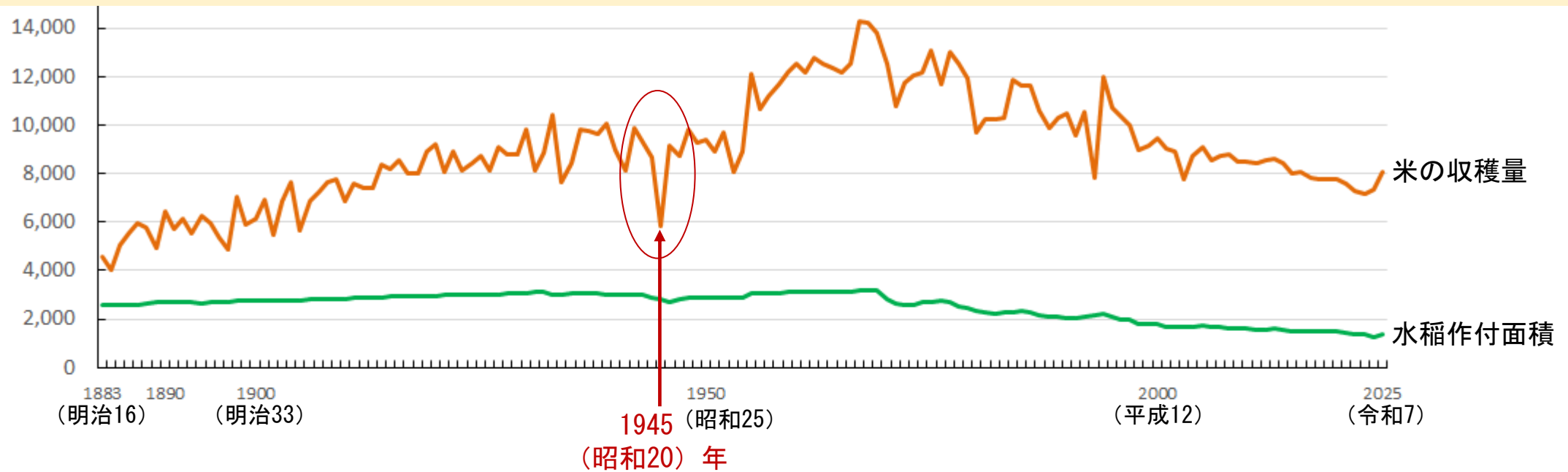
資料：農林水産省「農林水産物輸出入概況」から作成

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/joho_gaikyo.html

出典：ウェブサイト「フード・マイレージ資料室」

<https://food-mileage.jp/>

(参考) 「食」からみた日米関係 (2)



- 終戦直後の日本では、**食料等の欠乏**から多くの餓死者や戦争孤児が発生
 - 1945 (昭和20) 年の米の収穫量：前5年平均比で**320万t、35%減**
 - アメリカなど連合国から様々な援助
- 1946年11月、**ララ (LARA) 救援物資**が横浜港に到着
 - LARA：アジア救済公認団体 (Licensed Agencies for Relief in Asia)
宗派を超えた宗教団体や社会事業団体など13の**民間団体**で構成
 - 救援物資は**食料 (全体の8割近く)**、衣料、医薬品、靴、雑貨等
 - 全国1400万人に配分。1947年には**学校給食**も開始
 - LARAの母体は、戦争中は強制収容されていた**日系人が中心**になって設立した「**日本難民救済会**」
ララ救援物資の約2割はアメリカをはじめとする日系人コミュニティが集めた

本日のフォーラムの取り進め方等



○ ゲスト：釘島浩子（くぎしま・ひろこ）さん

三重県生まれ、大分県育ち。

慶應義塾大学文学部の卒業論文で杉本鉞子『武士の娘』を研究。

現在はフィナンシャルプランナーのかたわら、幕末以降の異文化交流、女性史、経済史についての研究を継続。

2月17日 第8回 食と農の未来フォーラム「「日本人ファースト」って？『武士の娘』から考える」（仮題）（ゲスト：釘島浩子さん）

○ 録画して、申し込んで下さっている方にはアーカイブ配信（30日限定、公開はせず）

○ スケジュール

19:00～19:10 主催者からのフォーラムの趣旨等の説明

19:10～20:10 釘島さんからのお話（話題提供）

20:10～21:00 参加者との間で質疑応答、意見交換、感想等のシェア
（できれば全員からご発言を）

21:00～ 30分ほど延長戦？（録画なし）